

第1回一関清明支援学校「公開講座」報告

平成30年度第1回一関清明支援学校「公開講座」を8月7日（火）に本校舎で行いました。外部から4名、本校職員15名、計19名の参加でした。

当日は、「**聴覚障がい児への支援～個に応じた支援のあり方～**」というテーマで、「きこえについて」「オーディオグラムの読みとり方」「補聴器と人工内耳について」などの基礎的な内容と、「実際の保育・授業のために」ということで、乳幼児期、幼児期、小・中学生それぞれの時期に必要な支援や具体的な指導方法について、本校職員が講師となり講義が行われました。講義の中では、オーディオグラムを読み取ってみたいり、中等度用と高度用に調整した補聴器の音を聞いたりして実際に体験する場面もたくさんありました。参加者からは、「聴力レベルだけで判断するのではなく、オーディオグラムを確認しながら子どもの実態を把握する必要があると感じた」「自立活動の目標、内容と具体的な活動をする上での考え方を聞くことができた」等の声が聞かれました。

～当日配付資料より～



「きこえない」「きこえにくい」って？

- 全くきこえない(全聾)という人は、ほとんどいない。
- どれくらいきこえにくいかは、人によってさまざまである。

*** 人によって、ききやすい音、ききにくい音が違う。**←オーディオグラムや普段の様子から判断する必要あり。

難聴の種類

伝音性難聴	感音性難聴
伝音系(外耳～中耳)の障害	感音系(内耳～聴神経)の障害
軽度～中等度の難聴	きこえの程度は様々(軽度～重度まで)
骨導聴力検査においては、正常な聴力を示す	気導・骨導ともに同程度の結果が出る
医学的治療により、聴力の回復を図ることが可能な場合が多い	医学的治療により、聴力を回復させることは困難
補聴器の効果大	聴覚の補償が難しい

進化する補聴器

- 音環境を、補聴器が自動認識。
→プログラムをブレンドする機能を搭載。
- 高音域を圧縮、移調
- LEDライト表示で、装着状況を確認できる。
- 防水・防塵性能 国際保護等級IP58・IP68取得。
- 低アレルギー素材の使用。
- iPhoneでコントロール(ボリューム等)。

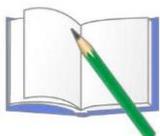
大事にしたいこと

- ◆ 日々の生活や遊びの中から、「共感関係」を築き、コミュニケーションの基礎を培う！

○一緒に生活をし、一緒に楽しく遊ぶことで、
かかわり手と子どもとの「共感関係」を築き、
かかわり手が子どもの気持ちを理解する。
⇒ **ことばを獲得する土台になる。**

<アンケートから>

- 「補聴器をつければ聞こえる」という認識が変わりました。
- 実際に補聴器の音を聞いてみて、聞きたい音が聞こえるのではなく雑音も多く聞こえることが分かりました。
- 今、目の前にいる子どもを想定して研修することができました。
- 手話についてもっと知りたいと思いました。



*内容を詳しくご覧になりたい方は、本校にお問い合わせ下さい。
TEL 0191-33-1600 担当：幼小学部・教諭 三浦 由紀子